

千葉県 鴨川市・千葉市 出張報告要旨

1. 訪問目的

今後、医療ツーリズムを検討していく上で、先駆的に取り組んでいる病院の設備、運営の実態を視察すると同時に、医療ツーリズムの実施を阻害する制約や必要な条件（施設、規制、地域医療とのすみわけ等）等についての考察を深める。

また、先端がん治療である「重粒子線がん治療」を、今後、我が国競争優位にある分野として打ち出していくことが出来るか、その際の課題は何か、といった点について現地視察のうえ、ヒアリングを行い、考察を深める。

2. 現地で得られた意見・アイデア

<ニーズ等>

- 現在の医療制度では、より先進的な医療へのニーズがあったとしても、それが保険外診療であれば患者は全ての医療費を自己負担することになるため、ニーズを摘み取っていることになる。
- 医療は、機械化などによりいかに人を減らして利益を上げるかをめざす分野ではなく、ホスピタリティの観点から必ず人手が必要な分野であり、これからも雇用を産み出す分野。
- 今後は、中国、カナダ、ロシアなどが重点的なターゲットとなり得る。例えば、カナダは、心臓カテーテル検査で半年も待たなければならないが、日本では1泊2日で価格も安くできる。特にロシアの極東地域の医療は、充足されているとは言い難い。中国においては、富裕層が自国の医療のクオリティに不安を抱いている。
- JCI（国際医療機能評価）の認証取得の趣旨は、あくまで医療の質を高めるためのツールであって、外国人患者の来訪者数を増やすためのものではない。ただ、世界水準の医療技術を保有していると認証されることは、外国人患者にとっては日本に来て治療を受けるか否かの判断基準となるため、結果的に外国人患者の来訪者数が増加することも期待される。
- 重粒子線がん治療の現在稼働中の施設は世界で4箇所（千葉・放射線医学総合研究所、兵庫・粒子線医療センター、ドイツ・ハイデルベルグ、中国・蘭州、※）。世界で約6,500名の治療実績。このうち80%以上を放医研が治療。重粒子線がん治療での実績・臨床研究・治療データに関し、我が国は世界において

圧倒的な強みを持つ。

※ 3月16日、群馬大学にて小型化された装置による重粒子線治療が開始された。我が国で3箇所目。

- 重粒子線の特徴は①集中性（ピンポイントに治療可能。）、②強い生物効果（細胞を死滅させる力が強い。）にある。このため骨肉腫や膵臓がんなど難治性がんで有効なものがあるほか、短期照射、すなわちX線であれば40回の照射が必要な前立腺がんについて12回照射（肺がんは1回。肝がんは2～4回照射。）で済むこと、安全で副作用が少ないため他の治療を併せて実施できるなど長所が多く、ニーズは極めて高い。

<課題>

- JCIの外部審査では、審査官がどの職員に何を質問するかわからず、また、患者やその家族にも病院の対応について質問する。したがって、全職員に対して、病院の理念や機器の使い方などを徹底してレクチャーすることが必要。
- 日本の医師は、OECD平均の2/3しかおらず、また、医師法により医師以外は医療行為ができない中で、国民の医療ニーズに十分こたえることが難しくなっている。
- 韓国では医療を成長分野と位置づけて、医療ツーリズムに国を挙げて取り組んでいる。日本では海外から医療を受けに来たいという人がいても、ビザの取得で止められてしまう。
- 医療情報のデータベースを取り扱うベンダー間のシステム互換性を確保することは有用。共通IDのあり方も検討する必要がある。
- 重粒子線がん治療について、短期的課題としては、① 重粒子線がん治療のハード・ソフトの国際標準化と国内外での普及に向けた取組み、② 呼吸に合わせて動いている臓器に対し正常な細胞に当てることなく3Dスキャンしながら照射するシステムの開発など治療技術の高度化、③ 放射線腫瘍医等の専門人材の育成強化など。
- 長期的課題としては、① 重粒子線がん治療施設の小型化、② 患者がストレス無く様々な角度から照射できる装置（小型ガントリー）の開発、診断しながら同時に治療も出来る機器（オープンPET）の開発といった更なる治療技術の高度化など。
- 海外から「重粒子線がん治療施設の導入の相談」が多くある。また、「海外からの患者受入れ等の相談」もある。
- 重粒子線がん治療装置の国際標準化や高度化を進めながら国外に普及させることで、国内需要に対するコストダウンをも図るべきでないか。この際、我が国の強みとして、重粒子線がん治療装置の輸出、技術支援、人材の供給について、例えば原子力発電輸出とのセット等を官民一体となって取り組んでいくべきでないか。このことは放射線の平和利用でもある。国際電気標準会

議(IEC)において重粒子線がん治療装置の国際標準化の動きもあり、これまでの治療実績と弛まぬ研究開発をもって世界をリードしていくことが必要。

3. 今後の検討事項

- 日本の医療機関におけるJCI取得の支援・促進
- 医療ビザの導入
- 医療のIT化（医療機関間のシステム互換性の確保、共通IDの導入）
- 混合診療の在り方
- 重粒子線がん治療の国際標準化、普及、研究開発支援

以 上